

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アンバー新浦安			
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 10日		～	令和7年 4月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数)	24人
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 24日		～	令和7年 4月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者が楽しいと感じる事ができる運動療育が提供できている。	今の環境でできる楽しいプログラムを考案し、子ども達のレベルに合わせたルール設定や導線確保を行っている。	技術面、体力面、精神面は常に利用者個々に合わせ、より楽しく、成長に繋がるプログラムを提供する。
2	スタッフと利用者がとても良い関係性を築けている。	スタッフが身体を動かし汗をかき、利用者と一緒に楽しんでいる。また、学校や他の友達の家など、話をする時間も設け、信頼関係を築いている。	色々なイベントを実施して、普段のプログラム外での交流や触れ合いを増やしていく。
3	安全・清潔を徹底し、利用者も保護者も安心して利用ができる環境を整えている。	日々、掃除箇所・担当を決め、清潔・安全を徹底している。利用者が使う場所は当然、備品室や事務室などのバックヤードも整理整頓・清掃を行っている。	事業所内の危険箇所のチェック、備品の破損等のチェックを定期的に行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所との交流機会が少ない。	自施設での様子は把握しているが、他事業所での様子や、課題についての共通した支援は行えていない。	相談支援員を中心に、各事業所、保護者が一体となり支援を行っていく事が望ましい。まずは、他事業所への見学をさせていただき、連絡が取り合える関係性を作っていく。
2	スタッフの男女比のバランスが良くない。	女性スタッフが多く、運動の補助や身体が大きい子の補助は限られた男性スタッフのみの対応になっている。	技習得に向けて、補助だけではなく、段階別練習の方法や指導技術を高める為、定期的な研修を行っていく。
3	運動支援を行うにあたり、支援室に十分な広さがない。	運動をするには十分な広さではなく、小学校高学年になると跳箱の助走が3歩程度しか取る事ができない。ぶつかりなどの安全面、運動効率、運動量の確保など常に工夫したプログラムを実施する必要がある。	スペースを上手に活用し、練習場所を区切ったり導線を統一する事で安全に配慮してプログラムを実施する。また、定期的に他事業所でのプログラム実施を検討していく。